

岩手火山群の成り立ち

岩手山は、全長 13 キロメートルにおよぶ巨大な岩手火山群に含まれる二十五山以上のうちの一山に過ぎません。主要峰の稜線は、西の三ツ石山から始まり、東へ向かって大松倉山、犬倉山、そして姥倉山をたどります。

岩手火山群の東部は岩手山成層火山体自体に座しており、薬師岳と呼ばれる左右対称形の山を擁しています。高さ 2,038 メートルの薬師岳は、火山群の最高峰です。見ごたえのある焼け走り溶岩流が岩手山の側面を覆っています。1732 年の火山噴火によって作られた地形である焼け走り溶岩流は、後に特別天然記念物に指定されました。

岩手火山群の西側の山々は、黒倉山から薬師岳までの 2.5 キロメートルに広がる、楕円形をした古いカルデラを取り囲むように位置しています。目立つ西岩手カルデラの南側の険しい尾根は、特に印象的な岩の形で知られ、鬼ヶ城という名前を授かっています。

岩手山成層火山体の西部は過去 70 万年にわたって繰り返し起こった噴火と崩壊によって形成されたと考えられています。一方、東側は西側よりずっと後にできたとされます。